

みどりの

Midori no Tohoku

東北

No.271

令和8年 2026.10

林野庁 東北森林管理局

Tohoku National Forest Regional Office

CONTENTS

特集コーナー	-----	2
使える！行政情報& 研究・技術の参考情報	-----	3
地域発NEWS	-----	4~7
国有林野所在	-----	8~9
市町村の魅力紹介		
地域のこの人	-----	10

岳岱自然観察教育林「こまいぬシナノキ」
(秋田県山本郡藤里町)
[米代西部森林管理署]

藤里町にある岳岱自然観察教育林の散策コース内にある「こまいぬシナノキ」はコブの一部が狢犬に見えるので、お越しの際は探してみてください。



朝日山地森林生態系保護地域の 保全管理について

朝日庄内森林生態系保全センター

当センターでは、朝日山地森林生態系保護地域においてパトロールや登山者への啓発、中・大型哺乳類のモニタリング、特定外来生物の駆除を実施し、貴重な自然環境の保全に取り組んでいます。

「保護林」は、原生的な天然林などを保護・管理することにより、森林生態系から成る自然環境の維持、野生生物や遺伝資源の保護、森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に資することを目的としている国有林野のことです。

現在、保護林は、「森林生態系保護地域」「生物群集保護林」「希少個体群保護林」の3区分に分類されています。このうち「森林生態系保護地域」は全国で31箇所、東北森林管理局管内には8箇所設定されており、その一つが「朝日山地森林生態系保護地域」です。

朝日山地森林生態系保護地域は、山形県と新潟県にまたがり、総面積は約7万haに及びます。このうち東北森林管理局の管轄面積は約4万8千haです。当センターでは、この広大な保護地域の保全管理を中心とした業務を行っています。

関係機関等と連携しながら、動植物の採取や樹木の損傷、既設登山道から外れた場所への立入りによる踏み荒らしなど、生態系に悪影響を及ぼす行為のパトロールを実施しています。また、登山者に対するマナー啓発活動にも取り組んでいます。

さらに、森林病虫獣害対策の一環として、令和7年度から、センサーカメラを活用した中・大型哺乳類調査を開始しました。近年、山形県内で増加傾向にあるイノシシやニホンジカ、外来種であるハクビシンやアライグマなどの生息状況を継続的にモニタリングしています。昨年度の調査結果については当センターのウェブサイトに掲載していますので、ご興味のある方はご覧ください。

ウェブサイトはこちら→

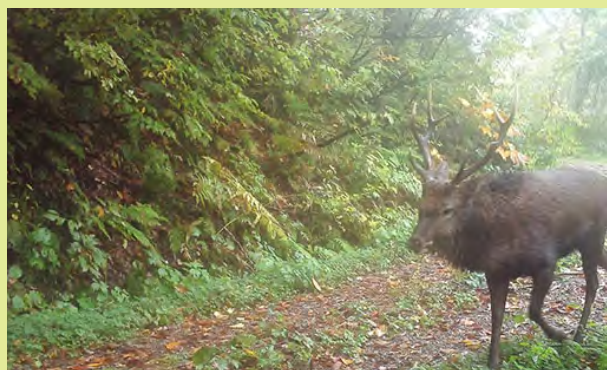


また、保護地域内に侵入した特定外来生物であるオオハンゴンソウの駆除にも取り組んでいます。朝日町の朝日鉱泉周辺では、登山道沿いと林道沿いの2か所において平成29年から毎年駆除作業を実施していますが、根絶には至っておらず、継続的な対策が必要な状況です。

朝日山地の豊かな自然環境を将来の世代へ確実に引き継ぐため、今後も関係機関や地域の皆様と連携しながら、朝日山地森林生態系保護地域の保全管理に努めてまいります。



合同パトロールの様子 (R7)



センサーカメラで撮影されたニホンジカ



藪の中に潜むオオハンゴンソウ

森林計画の意見募集を始めます!

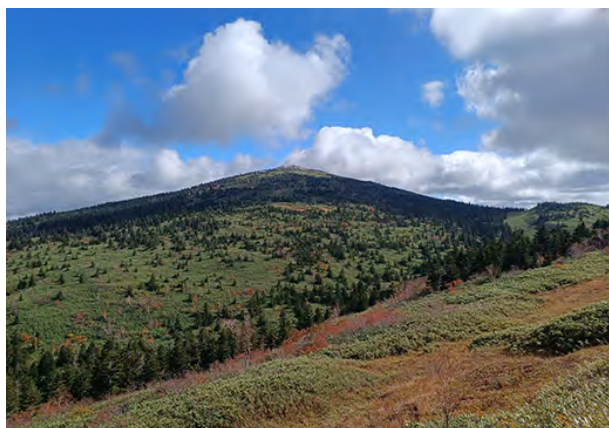
東北森林管理局では、地域管理経営計画を策定するにあたり、広く国民の皆様より意見募集を行っています。地域の国有林における多様な森林づくり、自然保護、土砂流出対策、森林環境教育、国産材の安定供給、民国連携等にかかる様々なご意見をいただき、それを踏まえた計画となるよう取り組んでいるところです。

今回、意見募集を図る森林計画区は、令和9年度に計画の策定を予定している①北上川中流（岩手県：岩手南部署・遠野支署）、②米代川（秋田県：米代東部署・上小阿仁支署・米代西部署）、③庄内（山形県：庄内署）の3計画区です。当局ウェブサイトより森林管理局署等の取組などをご参照いただいた後に、回答フォームにご意見等をご記入ください。

回答フォームには、①氏名、②都道府県、③住所、④年代、⑤ご意見の内容等を記載いただく内容となっています。

意見募集の期間は、11月1日（日）から15日（日）までの15日間を予定しておりますので、皆様からのご意見をお寄せください。

詳しくはこちら→



初秋の森吉山（米代川森林計画区）

ご関心のある方は、東北森林管理局計画課（TEL:018-836-2207）へお問合せ下さい。

特定母樹等の原種の生産・配布

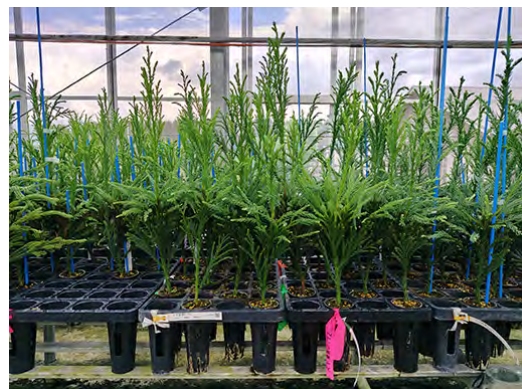
東北育種場では、スギやカラマツ等を対象として成長や材質、花粉量等の特性について遺伝的に優れた個体の選抜に取り組んでいます。これらの優れた個体（原種）は東北各県や認定特定増殖事業者の要望に応じて、穂木や苗木で配布しています。

原種の苗木は、さし木やつぎ木という方法で増殖します。これらの方法で増殖することで原種と同じ優れた特性を持ったクローンの苗木を生産することができます。

現在、原種配布の要望はスギやカラマツの特定母樹が多く、令和7年度にはスギ特定母樹3,723本、カラマツ特定母樹778本を含む4,910本を配布しました。令和8年度は、現段階でスギ特定母樹3,420本、カラマツ特定母樹350本を配布する予定としているところです。

配布された原種は、各県等の採種園・採穂園の造成や改良に利用されます。これらの採種園・採穂園から生産される種子や穂木は、種苗生産業者を通じ優良育種種苗として造林者に供給され、東北各地の山に植栽されます。

今後も関係機関と連携し優良個体の選抜を進めるとともに、各県等の配布要望に応えられるよう原種生産のための基盤整備や原種の生産を進めていきます。



スギ特定母樹のさし木クローン苗木

ご関心のある方は、森林総合研究所 林木育種センター 東北育種場（TEL:019-688-4518）へお問合せ下さい。

地域発NEWS

(治山・林道事業の取組)

各（支）署では、集中豪雨や台風等により被災した山地の復旧整備、機能の低下した森林整備等を推進したり、森林の整備・保全や林産物の供給等を効率的に行うための路網整備を推進したりしています。

山への導線、林道災害復旧に向けて「奮闘中！」

山形

山形森林管理署最上支署

およそ2年前のことです。令和6年7月25日から26日にかけて、山形県北部に位置する最上地域において集中豪雨が発生し、土砂崩れや河川の氾濫が起きました。

当支署が管理する国有林も同様に被害を受け、ほとんどの林道が路体消失や崩土などにより走行不能となりました。その数73箇所。被害額はおよそ28億円にもなりました。

災害復旧を進めるに当たり、まずは管内全路線の林道を当支署職員総出で点検し、被害状況を把握することとなりました。林道の起点付近で路肩の崩落や倒木等の被害があったことから、官用車での点検ができず、片道8km余りの道のりを徒歩で点検した職員も出るなど、大変過酷な業務となりました。

復旧工事に当たっては、早急な復旧を図るため、まずは概算の設計により災害復旧工事を公告し、工事实行中において現場の実情に合わせた詳細設計変更による変更契約も取り入れながら進めてきました。

豪雨災害から2年余りが経過し、昨年度までに21箇所の復旧工事が完成しました。今年度は34箇所の復旧を目指し現在奮闘中です。令和9年度以降には18箇所の復旧を予定しており、令和10年度までに、令和6年度に被災した全ての路線が復旧できるよう取り組んでいます。

近年、日本各地で線状降水帯の発生が顕著に表れ、多くの人家や農地、山林において被害が発生しています。当支署では今後も国有林の維持管理を継続し、森林の持つ水源涵養、土砂災害防止、環境保全、生物多様性などの公益的機能を最大限発揮できるよう努めてまいります。



土橋沢林道災害時



土橋沢林道災害復旧後



南山林道災害時（空撮）



南山林道災害復旧後

地域発NEWS

(森林整備等の取組)

各(支)署では、植栽、保育、間伐等の森林整備を適切に行うことで、健全な森林を造成し、資源の循環利用を推進したり、地域の木材の安定供給体制を構築するため、製材・合板工場等の需要者と協定を締結したりしています。

需要者のニーズに応える国有林材の供給

青森

青森事務所

東北森林管理局では、地域の木材需給状況を踏まえた国有林材の供給を推進しています。

その一環として、管内の森林管理署、支署では国有林野事業の一つである製品生産・森林環境保全整備事業で伐採された国有林材を、市場等が求める長さに採材(使用目的に合わせた長さの丸太に切ること)するため、林業事業体や木材流通関係者等を招集して、採材現地検討会を開催しています。

当事務所では、各森林管理署等が開催する採材現地検討会に参加して、地域における木材の需要動向について最新の情報を提供するとともに、採材についての技術指導を行うなど、需要者ニーズに応える国有林材の供給に取り組んでいます。

こうした取組を行ったうえで国有林から生産されたスギや青森ヒバ、広葉樹などの丸太は、委託問屋業者に販売を委託し、伐採箇所周辺の山元土場や委託先の市場で販売されています。

特に、令和4年度から供給が開始された当局独自の高品質ブランド材については、各森林管理署等からブランド規格に該当する青森ヒバや広葉樹の丸太を積極的に市場に出品しており、需要者から高い評価を得ているところです。

一方で、高品質材以外の青森ヒバについては、需要拡大が課題となっているため、ヒバの特性に着目したLVL土台の開発・製品化を行っている事業者や、地域材を活用した高付加価値製品を開発している合板事業者に対し、どのような品質・規格のものを必要としているかなどの調査を実施のうえ試行的に販売する予定としております。

貴重な森林資源を有効に活用していただくためにも、今後も需要者のニーズに応える国有林材の供給に取り組んでいきます。



採材現地検討会の様子



高値で落札された青森ヒバ(1本1,818千円)



優良材展示即売会に出品された広葉樹



青森ヒバを使用したLVL土台

地域発NEWS

(病虫獣害対策・森林生態系保全等への取組)

各(支)署・センターでは、希少な高山植物や生態系への脅威となる深刻な病害虫や動物による森林被害への対策を推進したり、森林生態系の保全・管理や自然再生、希少な野生生物の保護等をしたりしています。

大型排水管を利用したシカ残渣処理施設の設置と活用

岩手

三陸北部森林管理署

岩手県では、以前からニホンジカ(以下、「シカ」という)の生息数増加と分布域の拡大が続いており、特に早池峰山周辺では生息密度が高い状態が長期化しています。シカによる森林植生の食害は深刻化しており、希少な高山植物など他の生物や生態系への脅威にもなっています。

このため、捕獲目標頭数を増やしながら積極的な捕獲の取り組みが行われ、当署においても関係機関等と連携してシカ捕獲事業を実施してきました。しかし、埋設処理箇所の確保が難しくなってきたことに加え、ハンターの高齢化が進んだことでシカの処理作業が大きな負担となるなど、捕獲後の個体処理が大きな課題となっていました。

こうした状況を受け、令和6年度に遠野市において実施された『大型排水管を利用したシカ残渣処理施設(以下、「施設」という)』設置の取組を参考として、当署では、宮古市との協定に基づき国有林内に場所を提供し、令和7年度に施設が設置されました。この施設は、通常、排水管として使用されるコルゲート管や高密度ポリエチレン管を立てて地中に埋設し、捕獲したシカと発酵促進用の「ぼかし材」を投入して自然分解を促す仕組みで、時間の経過とともに分解され、骨と皮を残すのみとなります。

施設設置場所の選定に当たっては、地理的条件等を十分に吟味して適地かどうかを判断する必要がありますが、処理作業の負担軽減やコスト削減が十分可能であり、今後のシカ被害対策を持続的に進めるための手法として期待されています。

当署では、関係機関・団体と協力・連携しながら引き続き情報収集と効果の把握に努め、地域からの要望に応じたシカの捕獲支援や被害対策実施に取り組んでまいります。



残渣処理施設設置状況



転落防止・熊対策・不法投棄防止のため蓋を設置



管の内部



当署職員勉強会

地域発NEWS

(ふれあい・管理・総務等の取組)

各（支）署・センターでは、森林環境教育のプログラムの整備やフィールドの提供などによる「森林環境教育」の取組を推進したり、観光資源としての活用等を通じて国民に開かれた管理経営を推進したり、地域産業の振興や住民の福祉の向上等に貢献するために、地元住民等に対して国有林野の貸付を推進したりしています。

学び、考え、つなげる～蔵王ジオパーク～

宮城

仙台森林管理署

ジオパークとは、地球・大地（Geo）と公園（Park）を組み合わせた言葉で、地球の仕組みや過去から学び、文化や暮らしを未来へつなげ、持続可能な自然との共生を行っていくことを目的として認定・管理されている地域のことです。

当署管内の蔵王ジオパークは2024年に日本ジオパークに認定されました。貴重な自然や文化を守りつつ、地域主体で資源として教育や観光、地域振興の一環としても利用されています。

蔵王ジオパーク内には、宮城県と山形県にまたがる蔵王連峰があり、火山活動によって形成された雄大かつ独特な山岳景観を有し、コマクサやミズバショウといった希少植物や高山植物の群落、樹氷で有名なオオシラビソをはじめとした豊かな森林にも恵まれています。特に「御釜」と呼ばれる刈田岳山頂付近の火口湖は、蔵王を代表する景勝地であり、国内外を問わず多くの観光客が訪れるスポットになっています。

近年、蔵王ジオパークの認知度向上に伴い、ドローンによる御釜の撮影をはじめとした、入林の届出が増加しています。安全確保や自然環境への配慮をお願いしながら、適切な森林利用に努めています。

また、当署では地元自治体や温泉組合等が主体となっている蔵王ジオパーク推進協議会に委員として参画し、地域や関係機関と連携しながら国有林の保全と利活用に取り組んでいます。毎年実施される蔵王清掃登山には当署職員も参加し、自然環境の保護活動にも注力しています。

蔵王ジオパークには、この1ページでは伝えきれないほどの見どころが、まだまだあります。自然や大地に過去を学び、未来へつなげる一步を、蔵王から踏み出しませんか！



蔵王ジオパークシンボル「御釜」



コマクサ（宮城県指定 準絶滅危惧（NT））



スノーモンスターこと「蔵王の樹氷」



蔵王清掃登山の様子（写真の一部を加工しています）

地域発NEWS

(GSS活動報告)

当局では、白神山地世界自然遺産や管内の国定公園等自然豊かな地域において、登山者へのマナーの呼びかけや、植生の荒廃防止などの環境保全を行うため、森林保護員「グリーン・サポート・スタッフ (GSS)」による普及啓発活動に取り組んでいます。

栗駒山(須川岳)で保護活動を実施しています

岩手

岩手南部森林管理署

7月3日から、栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域でGSS4名による活動が始まりました。

今年度は、火山ガスの影響で通行止めとなっていた「須川コース」が約7年ぶりに、「^{ざるもり}策森コース」が約18年ぶりに再開通となっています。

当署GSSの主な活動としては、登山道の簡易補修をはじめ、植生保護のためのロープ設置、登山標識の修理、ゴミの回収などを実施しました。また県内外から訪れた多くの登山者に対し、植生保護や登山時のマナー・ルールに関する普及啓発カードを配布し、自然環境保全への理解と協力を呼びかけました。特に、登山道から外れて歩くことによる高山植物への影響や、ゴミの持ち帰りの徹底について重点的に啓発を行いました。

9月下旬からは栗駒山最大の魅力である、紅葉最盛期を迎え、登山者の増加が見込まれます。特に週末には多くの登山者の来訪が予想されることから、GSSによる巡視や登山者への案内・啓発活動の重要性が一層高まります。

GSSは10月までの活動期間中、さらなる普及啓発を通じて、登山者のマナー向上と自然保護意識の醸成を図りながら、貴重な森林生態系の保全に努めていきます。



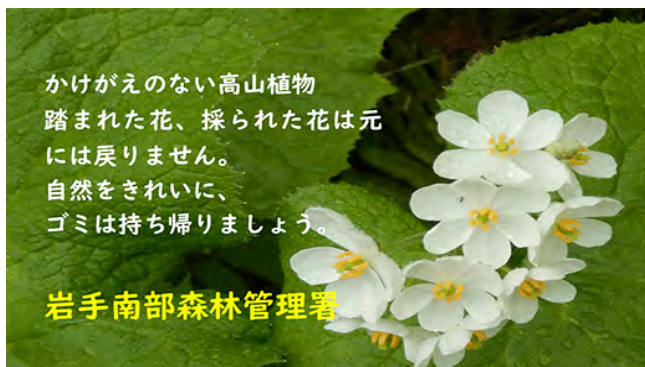
昭和湖



植生保護ロープ設置

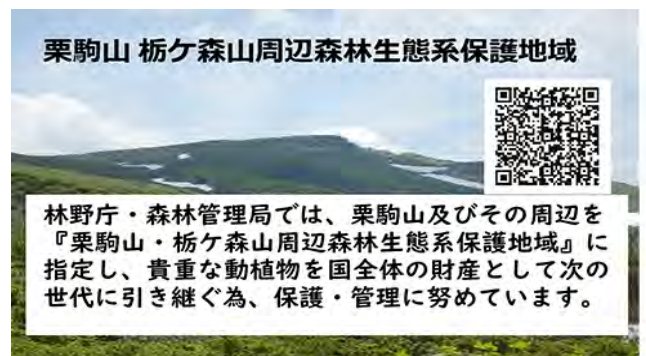


普及啓発カードの配布



かけがえのない高山植物
踏まれた花、採られた花は元
には戻りません。
自然をきれいに、
ゴミは持ち帰りましょう。

岩手南部森林管理署



栗駒山 栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域



林野庁・森林管理局では、栗駒山及びその周辺を『栗駒山・栃ヶ森山周辺森林生態系保護地域』に指定し、貴重な動植物を国全体の財産として次の世代に引き継ぐ為、保護・管理に努めています。

普及啓発カード

地域のこの人

森林や林業の仕事の魅力とは?!

林業業界で働く人と国家公務員「森林官」や森林管理署等で働く人の紹介です。

次世代へ繋げよう、この林業土木を

青森

(一社)青森林業土木協会

丸か建設株式会社 鎌田 祥友さん

私が宮城県最南端の町丸森町の現場を担当するようになり早いもので5年の月日が経過しました。

1年に1本の割合で携わってきたそれぞれの現場が位置するのは風光明媚な県立自然公園のど真ん中。春は桜、夏は清らかさが増す溪流、秋は紅葉、冬は雪景色と四季折々の渓谷美が我々の目と心を癒してくれます。作業や測量の途中、斜面に腰かけて休憩する我々の目に飛び込んでくるのは、すくすくと育った深い緑の木々とその隙間から見え隠れする荒々しい岩肌や巨岩の数々。それは美しい日本の原風景そのものであり、自分の仕事がその地元の暮らしや日常、そして景観を守り維持していく目的も擁していると考え、それがこの上ないモチベーションをもたらしてくれるのです。

また、地元の方々とも積極的に交流するよう心掛けており、どこかほのぼのとしてウィットに富んだ関係が築けていることは嬉しい限りです。

日々野山に身を置き、大自然と人々の生活を守り、そして維持していくこの仕事は次世代に繋げなければならない使命と意義のあるものだと思自負しています。

そして何より実にやり甲斐のある素晴らしい仕事に携わっていることを誇りに思うのです。



東北森林管理局 鶯の平現場視察状況の様子

自然の楽しさを子どもたちへ

秋田

由利森林管理署

経営担当 玉川 晟さん

私の働く由利森林管理署は、秋田県の由利本荘市とにかほ市に広がる約2万3千haの国有林を管理しています。管内は名峰鳥海山の麓に位置しており、ユニークな形をした巨木「あがりこ大王」に出会える中島台や、日本の滝百選にも選ばれている「法体の滝」などの名所があり、多くの観光客や登山客でにぎわう自然豊かな地域です。

私は現在採用3年目で、業務グループの経営担当として日々の業務に取り組んでいます。

その数ある業務の中でも私が特にやりがいや楽しさを感じる仕事は森林教室などのふれあい業務です。当署では毎年、地域の小学生や高校生を対象に森林教室を開催しています。

実際に中島台などの森林と一緒に歩いて自然を肌で感じたり、小学校へ出向いて自作のスライド発表、たけのこ堀りや丸太切りなどの体験を交え、様々なアプローチで森林の魅力を伝えていきます。夢中になって楽しんでいる子どもたちの笑顔は達成感ややりがいを与えてくれます。

森林は長い時間をかけて次の世代へつないでいくものです。だからこそ未来を担う子どもたちに、森林の魅力を伝えて興味を持ってもらえるような活動を一人でも多くの子供たちへ広げていきたいです。



森林教室の様子

国有林野所在市町村の魅力紹介

国有林野の所在している市町村は、自然豊かで、おいしい食べ物や名産品も多くあります。その魅力をふんだんに紹介しています。



秋田県秋田市

秋田森林管理署

人口 288,966人(R8.9.1現在) 面積 906.07km²

市町村の木 けやき 市町村の花 さつき

秋田市は秋田県のほぼ中央部に位置する県庁所在地で、北東側は太平山をはじめとする山々が連なり、西側は日本海に面しています。伝統文化や観光資源を生かした緑あふれる公園都市づくりを進めています。

秋田市と上小阿仁村にまたがる「太平山」(標高1,170m)の山頂には太平山三吉神社の奥宮が鎮座し、古くから山岳信仰の対象として人々の崇敬を集めています。周辺には自然豊かな国有林が広がり、秋田市街や日本海、男鹿半島を望むことができます。



千秋公園から太平山を望む

秋田の夏を代表する「秋田竿燈まつり」は、毎年8月3日から6日にかけて開催。稲穂に見立てた竿燈を手のひら、額、肩、腰に乗せた差し手が、「どっこいしょー」の掛け声を受けながらバランスを取り、操ります。ねぶり流し館では、秋田の民俗芸能が展示され、竿燈演技も体験できます。



秋田竿燈まつりは東北三大祭りの一つ

せんしゅう

くほたじょう

千秋公園(久保田城跡)内の「秋田市立佐竹史料館」では、江戸時代を通じて秋田の地を治めた佐竹氏や秋田藩の歴史を紹介しており、特に兜の前立に毛虫の意匠を施した甲冑は見応え十分です。上述のねぶり流し館や佐竹史料館などの秋田市立文化施設を巡る方には、お得な共通観覧券「くるりん周遊パス」をおすすめします。



令和7年10月にリニューアルオープンした佐竹史料館

秋田空港近くの「秋田国際ダリア園」では、約7,000株のダリアが咲き誇ります。品種により開花時期が異なるため、8月中旬から11月初旬まで、色とりどりの花を長く楽しめますし、例えば「NAMAHAJE ドルチェ」「ひなたぼっこ」などのユニークな品種名にも注目です。



毎年多くの新種を発表する秋田国際ダリア園

※写真はすべて秋田市提供



より詳しい
市町村の魅力はこちらから



「くるりん周遊パス」の
詳細はこちらから

お問合せ先：秋田市観光文化スポーツ部観光振興課 Tel.018-888-5602

管内の見どころ写真展



美しい森林の風景や国有林事業の様子など、管内各地の見どころをご紹介します。



栗駒山

(宮城県栗原市、岩手県一関市、秋田県雄勝郡東成瀬村) 宮城北部森林管理署、岩手南部森林管理署、秋田森林管理署湯沢支署

栗駒国定公園の主峰栗駒山(標高 1627m)は、宮城・岩手・秋田の三県にまたがる、奥羽山脈の代表的な山の一つです。山頂からの眺望は 360 度鳥瞰をなし、鳥海山、月山、蔵王連峰、秋田駒ヶ岳、早池峰山、そして遠く太平洋が望まれ東北地方の中央部に位置した大展望地でもあります。

だいらきょう

太良峡の紅葉

(秋田県山本郡藤里町)

提供：藤里森林生態系保全センター

藤里町を流れる藤琴川に沿って、県道二ツ井西目屋線を北上していくと、深く浸食された太良峡が現れます。

藤琴川が深く刻んだ太良峡は、一通の滝、不動岩、仁王岩、位牌岩、犬戻溪谷など、大小さまざまな滝や奇岩・怪岩を樹齢 200 年以上の天然秋田スギ、ブナ、ミズナラ、トチノキなどが覆い、特に秋の紅葉はことのほか美しい景観を見せてくれます。



男和佐良比山山頂

(岩手県久慈市・野田村)

提供：岩手北部森林管理署久慈支署

北上山地の北部、岩手県久慈市と野田村の境にあり、和佐羅比峠を挟んで、男和佐羅比山と女和佐羅比山が対になって並んでいます。

ナラ枯れ被害防止対策（おとり丸太）現地調査会を実施しました

当局では、国有林内においてナラ枯れ被害の深刻な場所に「大量集積型おとり丸太」を設置し、原因となるカシノナガキクイムシを誘引・捕獲することで被害の抑制を図る取組を行っています。

9月9日（水）、10日（木）の2日間、秋田森林管理署管内に設置したおとり丸太について、専門家の立会いのもと、誘引状況や被害抑制効果を確認する現地調査会を実施しました。このうち10日（木）には、報道機関4社の取材も行われました。調査の結果、おとり丸太にカシノナガキクイムシの穿入痕が多数確認され、被害の抑制に効果があったと推定されます。ナラ枯れ被害対策の詳細は、当局ウェブサイトをご覧ください。



現地調査会の様子



ナラ枯れ被害対策について

白神山地合同パトロールを実施しました

世界自然遺産に登録されている白神山地での入山者のマナー向上を図るため、現地の関係機関と合同パトロールを9月18日（青森県側）と26日（秋田県側）に実施しました。青森県側は暗門溪谷コース、高倉森コースおよび白神岳コース、秋田県側は藤里駒ケ岳・樺岱コースで、入山者へマナーパンフレットを配布し、ゴミのポイ捨てや樹木の無断伐採などの違反行為がないかを確認しました。なお、巡視員の高齢化を受けた後継者育成の取り組みとして、令和6年度から東北地方の大学生などを対象に「一日巡視員」を募集しており、今回は青森県側で2名、秋田県側で3名がパトロールに参加しました。



パンフレットを配布
（藤里駒ケ岳）



パトロールの様子（白神岳）



パトロールの様子
（暗門溪谷）



パトロールの様子
（藤里駒ケ岳）

お問合せ先

青森県	青森事務所	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-2117	宮城県	宮城北部署	大崎市古川東町5-32	☎0229-22-2074
	津軽署	弘前市大字豊田二丁目2-4	☎0172-27-2800		仙台署	仙台市青葉区東照宮一丁目15-1	☎022-273-1111
	金木支署	五所川原市金木町川倉七ヶ野84-66	☎0173-53-3115	秋田県	米代東部署	大館市上代野字中岱3-23	☎0186-50-6130
	青森署	青森市篠田三丁目22-16	☎017-781-0131		上小阿仁支署	北秋田郡上小阿仁村沖田面字野中376-13	☎0186-77-2422
	下北署	むつ市金曲一丁目4-6	☎0175-22-1131		米代西部署	能代市御指南町3-45	☎0185-54-5511
	三八上北署	十和田市西二番町1-27	☎0176-23-3551		秋田署	秋田市河辺和田字和田156-3	☎018-882-2311
	津軽白神センター	西津軽郡鰺ヶ沢町大字舞戸町字東阿部野70-82	☎0173-72-2931		湯沢支署	湯沢市田町二丁目6-38	☎0183-73-2164
森林技術・支援センター	北津軽郡中泊町大字中里亀山540-8	☎0173-57-9022	由利署		由利本荘市水林439	☎0184-22-1076	
岩手県	岩手北部署	八幡平市荒屋新町41-8	☎0195-72-2221	藤里センター	山本郡藤里町藤琴字大関添24-3	☎0185-79-1003	
	三陸北部署	宮古市磯鶏石崎4-6	☎0193-62-6448	山形県	庄内署	鶴岡市末広町23-37	☎0235-22-3331
	久慈支署	久慈市夏井町大崎14-12	☎0194-53-3391		山形署	寒河江市元町一丁目17-2	☎0237-86-3161
	三陸中部署	大船渡市盛町字宇津野沢7-5	☎0192-26-2161		最上支署	最上郡真室川町大字新町字下荒川200-11	☎0233-62-2122
	盛岡署	盛岡市北山二丁目2-40	☎019-663-8001		置賜署	西置賜郡小国町大字岩井沢581-45	☎0238-62-2246
	岩手南部署	奥州市水沢東上野町12-17	☎0197-24-2131		朝日庄内センター	鶴岡市末広町23-37	☎0235-26-1841
	遠野支署	遠野市東館町7-39	☎0198-62-2670				

東北森林管理局 ☎010-8550 秋田県秋田市中通 5-9-16 ☎018-836-2014

